

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Centimetres

Blue 1 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Cyan 2 3 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Green 4 5 6 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Yellow 8 9 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Red 10 11 12 13 14 15 17 18 19
Magenta 11 12 13 14 15 17 18 19
White 13 14 15 17 18 19
3/Color 15 17 18 19
Black 17 18 19



199
1

新累解脫物語壹

13
199
1





ひかき

此の解脫は澤々我國心流家泰斗
こる由方今世の作る格と為る所ん豆予
程ん豆と得る麻の得る道際
と不ろ一得ら因果報應のころを
其水る者也余如地白の系推と接は田考
之まき其作意集一以の奇と珍と
江湖のの解家情の知さしと
端の製本或るころ心巻自に
晩秋の月 春香園
湖濱の志

於
199
1

新撰解脫物語序



論廻報應之説不獨聖賢墨氏出而宣

布其義而已去儒久禁妄殺生者

莫崇其物或ふ取茲舞卯等語不見

可況道家上章豈可自誅乎予嘗

引佛氏言一切生法如植粟得粟植

豆得豆是因心成体有華則有果

新撰解脫物語序

明世十年十月十日葉藏藏贈

如谷在聲語雄而響心屬多令人
觀此篇託一個嫗母事而後許多
果報明占禍殃有自登卜閣第招
非情文衍飾以可勸懲之路廣諭
人何其筆端之奇戲雜涉荒誕
鼓盪激薄可喜亦可歌可泣能
施羅二生為歎手真醒世真言也

至重畜之妙令人心融神釋色
飛眉舞弄于百長覽殆不覺厭矣
近日傳奇之檀場稗史之珍珠船
也有是箇兩才子植如斯之善巧方
便之筆種由獲無憾園滿不之
之福是出肆鑄之老假其果報
之感應亦豈之有得無窮之幸

繼繼南河
 不切形未
 雷擊雷早
 禽類善器
 勤幹骨武
 報也棗平
 早變未律



是理所必有也文則成物亨馬琴
 子至朱北商之手刻之者吾浪
 華文金堂也時文化丙寅素平
 月朔呵凍書於細香書屋之
 下
 友石主人識



壽 炎 泉

風 帆 雲

新羅國用比部老一

西入權之丞



田糸姫

新羅國用比部老一

單到真入庄



送梅用
通齊間
齊間也

通幾乃
軒斜
龍宮



羽生與左衛門

行日六早危勿言云云

團扇



月牙
插頭
之合鏡



織越與右衛門

行具... 屏危勿...



加左彌

新見是角月...

土

新撰 新集 新撰 新集

嘗聞下總國岡田郡

羽生村の農夫と右津つが妻累の相貌宛々醜悪なり某年某

月某日彼累給川の南岸

乃小殺害せり

憑く呵責する甚しこれ古今未曾有の鬼病なり

治まること得む偶道高権智の神僧濟度志ぬ小あて寃魂支地小

得脱をその既畧を記し草紙を元靈鮮脱物語といふ

作者 亦新著聞集

河内屋太助逆小鮮脱物語二巻を贈る

志るもとも文辞麗漏小く婦幼の耳目を興示る月の小あて

願く先生脩飾し其の奇を増とを余諾しこれを考西敷と

小のえく踏籍き困く己を得む往ヒ口碑小傳るところを摘む

その闕畧を補ひ同亦足るなり或ハ鬼名小撮合し或ハ鳥有子

小托し唐山の小説小撮と文を綴ると若干巻倉卒の際し

稿を脱し命く新撰鮮脱物語といふ新は是舊版小あてを

あまをの夫鮮脱とい何ぞ翻譯名義集云肇曰縦住無礙

塵累不能拘者鮮脱也竹曰亦名三昧亦名神足或令

修短改度或巨細相容變化隨意於法自在鮮脱無礙

故名鮮脱又曰心得自在不爲不能所縛故曰鮮脱淨

名疏云一真性二實慧三方便故經云諸佛菩薩有鮮

脱各不思議若菩薩住此鮮脱者能以須彌之高廣内

梅むる小和名類聚鈔四部の部小岡田郡うし内鈔下總の御名

豊田郡の條下小岡田飯館手向大方の四御あり後小岡田御を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以て其の御名を以

茲子中乃至種々變現莫測。即是三種不思議義也。何
 者。諸菩薩有解脫。即是眞性。若菩薩住此者。即是實慧
 能以須弥内於茲子等。即是方便大品云。心得好解脫
 慧得好解脫。垂裕云。心脫俱。慧脫是惠とゆり。没夫寃魂神
 僧の濟度小よつて成佛。一念無礙。煩惱を脱離。亦是好解
 脱を得。とゆり。且累解脫の目。摩訶譯小塵累拘不能解脫
 ちりといふ。小因縁あり。とゆり。今題目と更改とと。其の披園と
 る。因と推果と察。戰と競とと。善と修。惡と廢。心解脫を得
 小ちり。とゆり。他者の荒唐も。善巧方便の端とゆり。丙寅仲秋書。

江戸

著作堂



如是我聞。一時佛在舍衛國祇樹給孤獨園。講大比丘衆。

十二

新撰解脫物語總目錄

一名善談因果經

摩訶 阿難 切實 薩摩 當精 天天 土有 舍利 樂

- 新撰解脫物語總目錄
- 飲酒戒篇第三義
- 偷盜戒篇第三義
- 邪淫戒篇第一義
- 羽生村玉芝投宿
- 木奴川珠難延寃
- 追兎玄冬被謀白撞
- 喪對玉芝給事朱門
- 醜婦觀世願剃度
- 美男闕窺結誓緣

難 摩訶 諸善 菩薩 量 儀

寶周 又合 純以 亦以 天如 妙香 作天 以清 持選 嘉嚴 復次

妄語戒篇第四義

殺生戒篇第五義

毀謗戒篇第六義

貪食戒篇第七義

西入謀奸陷田糸姬
織越釀禍傷加佐彌

二靈責憑惡醜女再棄
一刀斷煩惱美男初仕

賺印幡芋續說靈夢
罪金五正流命婚姻

正亂便室印幡頭靈
法恩寺村芋續戀仇

舍利 邪見戒篇第八義

衆生 肉食戒篇第九義

風吹 欺誑戒篇第十義

其佛 新累解脫物語十戒字痛全本五冊目錄終

明無 彼佛壽命及其人民無量無邊

生 以 功 在

行日六拜道勿

村小ありしと死。夢搗下。夢世と密會く。奉らるる。母の産後小。身月言二。つ。その子を携へ。織越の家小。未りりしと。あられ。与九郎の女。累の携。養ちる。と。珠雞のつ。田むりも。夫を。又累と。愛。む。と。実子小。も。過。と。御。奉。その。負。實。を。稱。答。言。る。を。途。の。夕。られ。小。年。齡。五。十。の。ま。り。ち。る。後。人。二。ハ。む。り。の。美。女。を。携。ち。る。長。途。を。疲。勞。り。ん。だ。ら。く。与。九。郎。が。門。方。さ。一。眼。を。く。この。夜。の。歌。を。も。と。め。り。珠。雞。の。その。形。容。を。つ。る。小。痛。ま。く。お。ほ。え。く。強。顔。も。り。し。と。夫。の。棘。刺。小。出。し。の。ま。り。ま。ね。と。も。り。く。も。り。と。ま。づ。こ。り。と。く。裡。小。誘。引。が。柴。折。焚。つ。山。茶。煎。ち。と。く。款。待。の。旅。人。の。の。信。と。く。死。を。よ。ろ。と。び。げ。え。累。が。母。の。備。を。け。き。ら。く。び。と。狭。小。捕。刺。を。化。し。る。く。愛。し。く。物。の。ひ。り。う。る。も。人。小。寄。り。身。の。ゆ。と。あ。り。れ。く。浩。然。小。あ。り。と。与。九。郎。の。身。丈。より。一。度。高。く。荊。草。と。負。く。ま。り。る。小。珠。雞。に。く。出。迎。く。お。ろ。さ。し。の。間。常。より。遅。く。覺。る。小。さ。と。を。餓。も。ま。ぬ。ひ。け。ぬ。彼。処。ち。る。く。ら。の。び。ち。れ。く。宿。を。り。と。め。ぬ。ひ。一。程。小。の。家。小。在。ま。ね。と。歌。し。進。く。と。り。と。く。夕。餐。小。と。く。小。寒。の。圍。子。を。搗。ち。る。ち。る。志。を。一。俟。く。と。ま。た。ら。ぶ。ぬ。や。將。栗。の。飯。を。さ。る。べ。う。り。や。と。と。り。と。与。九。郎。の。点。頭。を。ま。れ。し。と。物。返。ち。も。あ。り。と。累。の。圍。子。ま。ら。り。ほ。ふ。又。あ。る。と。い。ふ。小。お。と。ち。り。う。田。の。ま。つ。と。と。い。つ。撞。抱。た。地。炷。の。向。ひ。小。ま。よ。と。ま。り。と。く。後。人。小。り。り。と。僕。の。ま。い。も。く。与。九。郎。と。い。つ。り。の。と。え。ぬ。ぬ。と。く。秋。究。く。貪。れ。の。進。く。と。物。も。ち。り。露。宿。日。ん。よ。の。勝。を。り。と。お。ほ。さ。ぶ。放。り。小。せ。と。よ。と。の。小。後。人。の。今。宵。の。庇。の。よ。ろ。と。と。り。と。を。回。答。ぬ。その。と。と。与。九。郎。の。折。燒。柴。の。火。光。も。り。と。と。推。ち。る。女。子。を。さ。る。小。正。小。是。沈。魚。落。雁。関。月。並。並。花。

身月言二

の容止さう小比ん小のち。弘経寺の悟天井小画。天津女小抄

の村落さうの勢徳ある人の女児とりあともさうさうこれ小比ん小のち

の團坐さう綾錦さうさう持し。猛小刺夜の袖引のじ

さうさうさうりあさう。言卒余もあれど。その中女の客人の息せふこと

あさうのさう故ふりく寢さう。後いさめあまると信らると同旅人さう

さう。後いさめ女児さう。年才十六名を玉芝とさう。原某の管領

憲勝山内憲政のふの走卒小。松戸丹下とりあまのさうと下衆さうあさうと勤

小女子が人さうさうさう末さうのりさうとひて。さうひ縫刺いひかもさうさう

糸竹の技竹られとさう習さうさう。その中憲勝さうあひさう。玉芝さうさう

さうさう風声ありさうさう。備葦の妬憎小さうさう。その中成らさう。判無

實の護言もと惣比流浪のさうさうりあまの世とさうさうさう。外小

さうさう親族もさうれとさうさう程あらぬ。飯沼の御ある些の由縁とさう

さう親子さうさうさうさうさうさう。その中五年あり前小さうさう

さうとさうさう。妻子の往方とさうれと。その中樹小。小雨ありさうさう

さうさうの櫛を絶。繫ね。船の磯小。漂小。似さう。夜光ありさうさう

その主に遇さう。親子が薄命。さうさうさうさう。猜ありさうさう。二五十一

は物さうさう。さうさうの憂を慰さう。その中玉芝さうさう。面さうさうさう

さう。殊難この物語をさうさう。痛さうさうさう。夫とさうさうさうさう

さう慰め。ありさう折敷小。團子を盛さう。丹下玉芝小。さう。又夫も食

さう累小。さうさう。さうは残さうさう。さうさう。自化の物さうさう。小更

さう。法藏寺の撞。寢よとさう。さうさう。俄頃小。さうさう。さうさう。夜の

儲さう。後人親子を叫さう。さう。宵さうさうさう。睡卧さう。さうさう。抱いて。



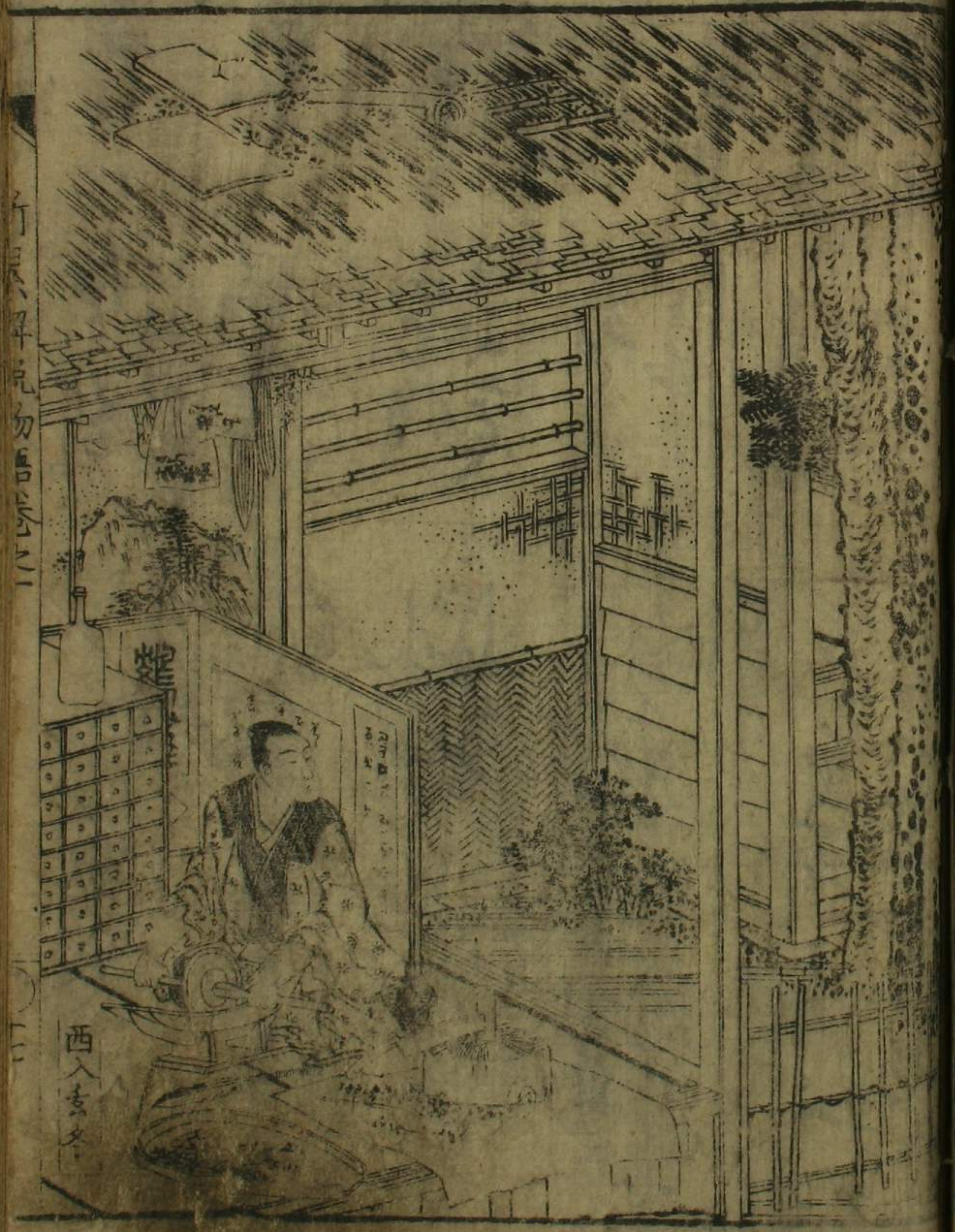
羽生村の
旅の宿り

親身月言

...

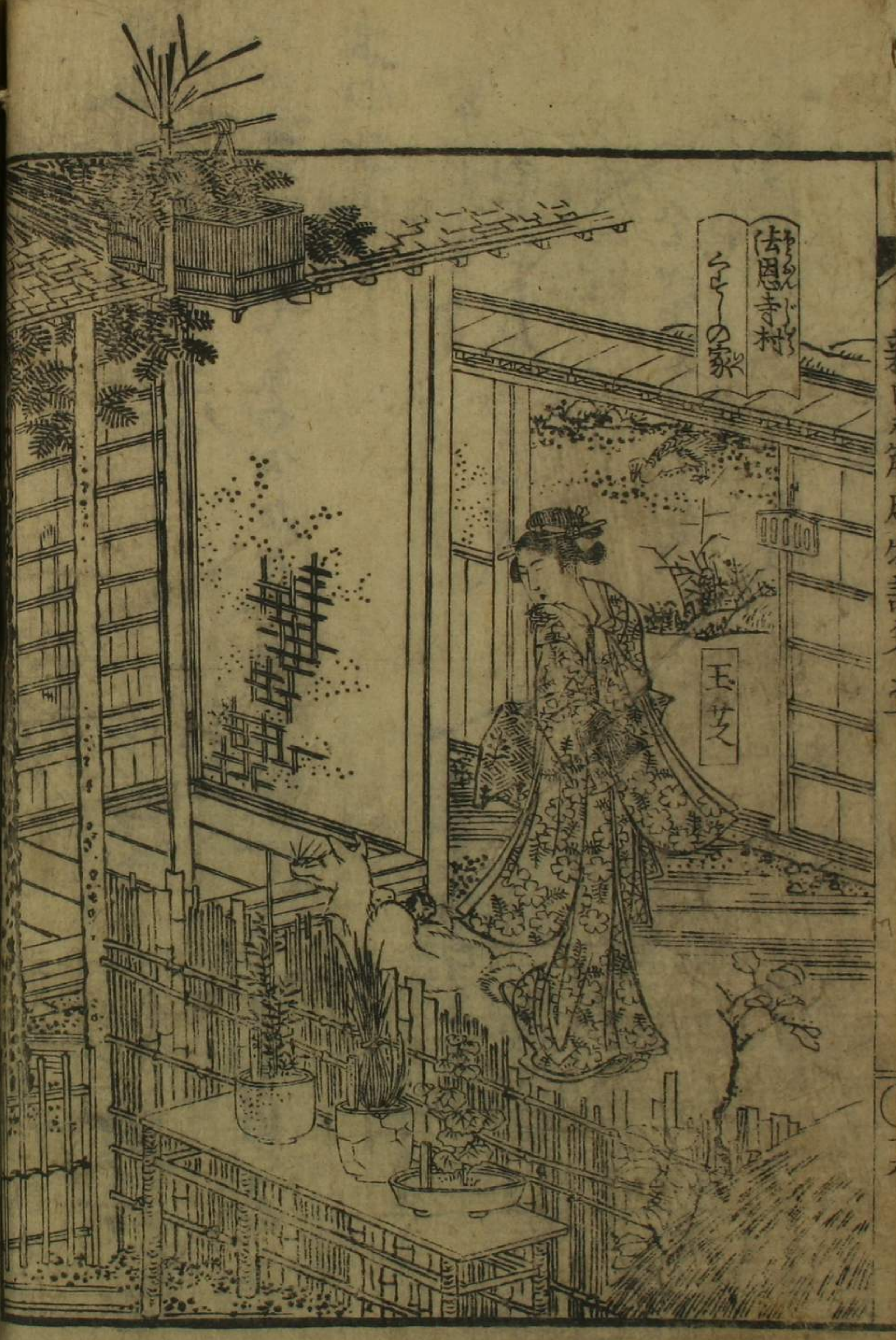
妻ありく。ちうも面つたの落路の翁ゆたを厭わど。容易うけず。
 く。ちうく足を駐んりみとさうりね。匿とされど殊雞の氣を小曉りく。
 傷痛くハあれど。羊ちうも物とん。ちうね容さうくありりるをちとつハ
 却款獲おはえ。まれど宿の山の神竹園の巫も憑く。いぬくと
 へ。ちうちう疎うちうく。さうりる小い。罵。或ハ打擲とさうく。
 玉芝のれをとらうとく。ちうく小憚る氣さうく。よろづちらげ小拳動
 ぼく。殊雞ハ朽き。ちうく限さうく。とさうりうさまひはさうりく。ちうた
 病着小卧さうり。男も女もこの政容とさうく。とく死ねくとさひさう。彼ハ
 家女児ちう小。御人小譏らさうり。とあり。ねさうり。ちうちも置さう。法君
 寺。村小西入玄冬とら。醫師あれど。れが茶劑をと小。与左とら。典辰
 茶小いとさう。れをさう。玉芝つとさう。茶さうり小ゆけと。これハ世の人目

を繕みさう。ちうれ。敢煎。飲さう。ちうもさう。彼玄冬ハ父をさ。北こ
 い。御小久ハ醫師さう。近屬牙さうりね。その子玄冬。今茲サ
 三歳さう。人とちうり酒と嗜を好むほど。鬢酉季ハ疎く。只
 顧謙倉様の衣服小綺羅を飾。田舎小稀。ちう美田。さう小さ
 く。彼此の女児小さびく。さう。風声あり。身さう。凋零。父が
 世小ありりると死さう。似ど。一人の奴隷さう。才の暇を遣り。廣らさう
 家小。只己の住り。さう。小件のさ。男頃日茶さうり小。未さ。玉芝
 を懸想。これ往年師小隨。二年あさうり武藏小あり。さう。か
 美女をさく。い。彼の謙倉の人さう。与左さう。家小。寓居。とさ
 是。此さう。さう。風流士さう。これさう。誰ハゆい。裸。さう。
 白異のあさう。さう。玉芝が。未さ。毎小。ちう。待小。玉芝えさう。



竹屋の早見物

西入



法恩寺村
の家の

玉女

春日の早見物

淫婦ちれば玄冬がいと艶たるをうらむ。亦憎くばひかり。されどこゝろの心
出るとよきぶちり。一日二日とこころ。玄冬と信とありひつくり。その
夜竊小艶前書寫ゆ。詰朝玉芝が来る候まらり。件かんの艶翰えんを
の畳紙たたみに裏納む。ともこひちりて玉芝のたまご日ひ正ただの如ごとの茶ちやもく
煎せんト用もちひふらむ。の法ほうあり。その記きに畳紙たたみの裡うちにあり。口くちより見
る人ひと小こめ。いはいと。さかたき茶ちや劑ざいと述のたまふ。玉芝たまごを中なか猜あやしき
莞尔えんとらら笑わらむ。ごろのゆるりと應おこむ。忙いそしく走り去さり。人ひとち死し物もの蔭かげに
到いたり。うら披ひねる。果たく。一封いつぽうの艶筒えんとうあり。りり。人ひとや末すえくこと
胸むねさうらさうらむ。さうらむ。さうらむ。封皮ふうひ押お折せく。讀よむ。
陸奥むつ紙かみ小こちき。このが文字ぶ摺ずりの乱みだり。假名なづさ。花はな落お落おれ。落おれ。落おれ。
玉たまごと。は迹あとまづ。拙あつく。は。の意い解かいむ。の身みを。死しね。し。殺ころし。師しのしを
活いせ。め。れ。ど。それ。へ。君きみ。う。ら。む。活いべ。し。と。も。お。ぼ。え。も。ち。ど。書かき。り。羽う立たり。と。い。ふ。せ
いとありひく艶筒えんとうと巻まき。え。かく。秘ひく。ま。つ。み。の。日ひ珠しゆ雞けいの珠しゆさう。若
くけ。く。卧ふせ。り。玉たまご芝し呂りょ今いまう。つ。の。あ。ら。寔まこと小こ奇き。れ。え。小こ。あ。う。
とひちけぬ人の着病えんま。あ。よ。あ。ま。う。小こ息いき。れ。い。堪かね。死し。小こ。湯ゆ。あ。う。あ。う。
賜たまらん。ま。つ。の。玉たまご芝しも。あ。む。ま。つ。の。小こ。木き。を。お。ひ。ぬ。れ。い。は。足あ。は。ハ。も
た。ど。朝あさ。ま。つ。の。茶ちや。ら。ふ。小こ。ゆ。い。か。留とど。半はん。の。数かず。も。あ。ら。ぬ。累かさね。の。こ
ち。小こ。あ。う。湯ゆ。双ふた。佛ほとけ。と。違ちが。へ。ぬ。湯ゆ。も。あ。う。水みづ。き。ら。と。飲の。み。と。申ま。ら。ひ
ふ。罵のの。す。ま。し。く。と。左ひだり。の。草くさ。野の。より。う。り。末すえ。く。こ。の。竹たけ。も。さ。う。高たか。小こ。お。ひ。ひ
ぬ。と。同おな。へ。玉たまご芝しの。は。頬ほ。の。あ。う。り。あ。う。る。さ。う。の。如ごと。此この。の。ゆ。ゆ。り。と。告つ。げ。り。
と。左ひだり。の。首くび。を。怒い。つ。て。罵のの。す。と。ゆ。ゆ。り。が。ま。す。その。時とき。殊また。雞けい。の。身み。小こ。あ。ら。ぬ。
ま。つ。の。首くび。を。起おこ。す。枕まくら。方かた。あ。ら。ぬ。屏びん。風かぜ。と。押お。除と。夫おと。と。玉たまご芝し。小こ。對たい。す。の。あ。ら。ぬ。

活いせ。め。れ。ど。それ。へ。君きみ。う。ら。む。活いべ。し。と。も。お。ぼ。え。も。ち。ど。書かき。り。羽う立たり。と。い。ふ。せ
いとありひく艶筒えんとうと巻まき。え。かく。秘ひく。ま。つ。み。の。日ひ珠しゆ雞けいの珠しゆさう。若
くけ。く。卧ふせ。り。玉たまご芝し呂りょ今いまう。つ。の。あ。ら。寔まこと小こ奇き。れ。え。小こ。あ。う。
とひちけぬ人の着病えんま。あ。よ。あ。ま。う。小こ息いき。れ。い。堪かね。死し。小こ。湯ゆ。あ。う。あ。う。
賜たまらん。ま。つ。の。玉たまご芝しも。あ。む。ま。つ。の。小こ。木き。を。お。ひ。ぬ。れ。い。は。足あ。は。ハ。も
た。ど。朝あさ。ま。つ。の。茶ちや。ら。ふ。小こ。ゆ。い。か。留とど。半はん。の。数かず。も。あ。ら。ぬ。累かさね。の。こ
ち。小こ。あ。う。湯ゆ。双ふた。佛ほとけ。と。違ちが。へ。ぬ。湯ゆ。も。あ。う。水みづ。き。ら。と。飲の。み。と。申ま。ら。ひ
ふ。罵のの。す。ま。し。く。と。左ひだり。の。草くさ。野の。より。う。り。末すえ。く。こ。の。竹たけ。も。さ。う。高たか。小こ。お。ひ。ひ
ぬ。と。同おな。へ。玉たまご芝しの。は。頬ほ。の。あ。う。り。あ。う。る。さ。う。の。如ごと。此この。の。ゆ。ゆ。り。と。告つ。げ。り。
と。左ひだり。の。首くび。を。怒い。つ。て。罵のの。す。と。ゆ。ゆ。り。が。ま。す。その。時とき。殊また。雞けい。の。身み。小こ。あ。ら。ぬ。
ま。つ。の。首くび。を。起おこ。す。枕まくら。方かた。あ。ら。ぬ。屏びん。風かぜ。と。押お。除と。夫おと。と。玉たまご芝し。小こ。對たい。す。の。あ。ら。ぬ。

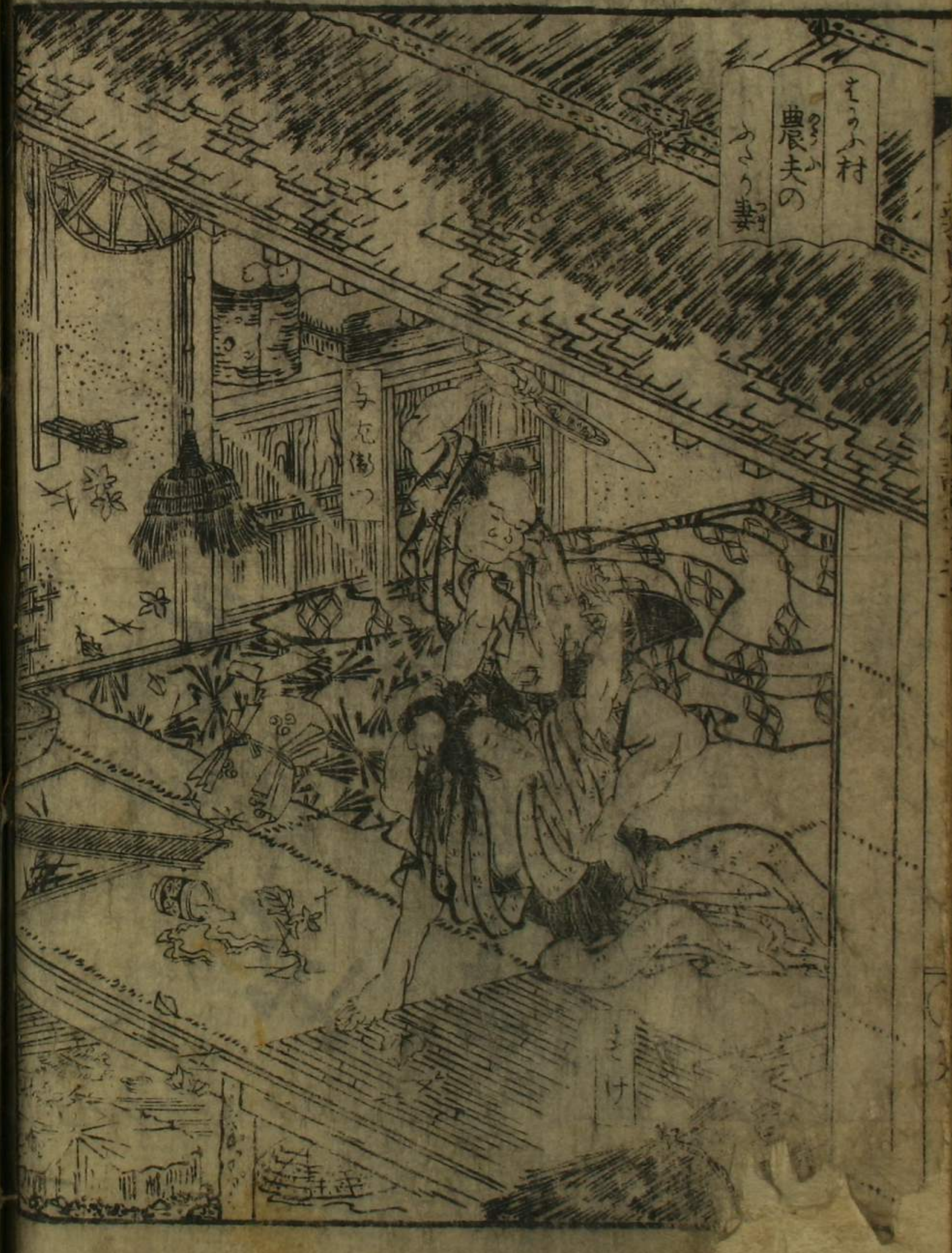
新日六拜免加吾是也

新田原尻物五五二



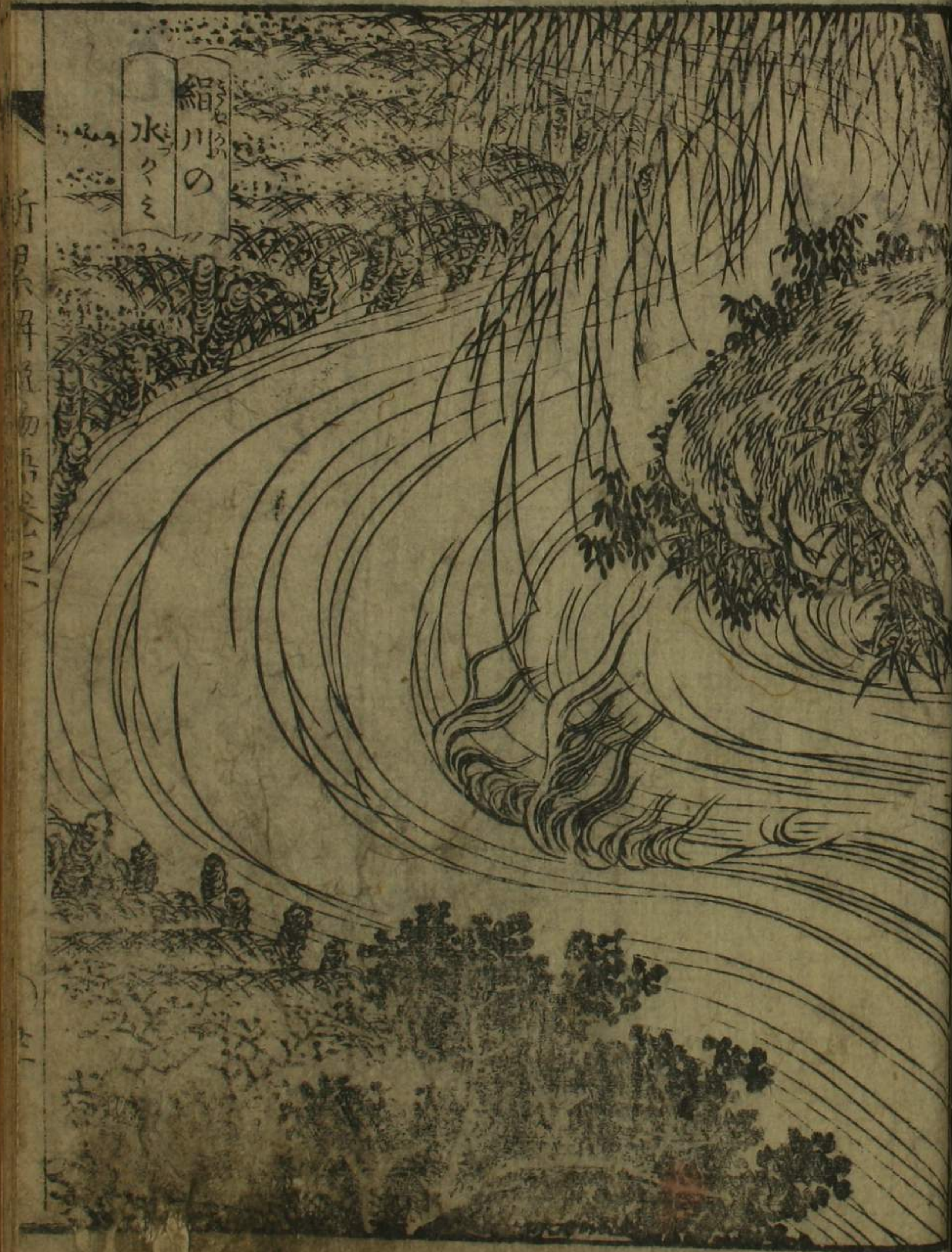
玉芝

のり

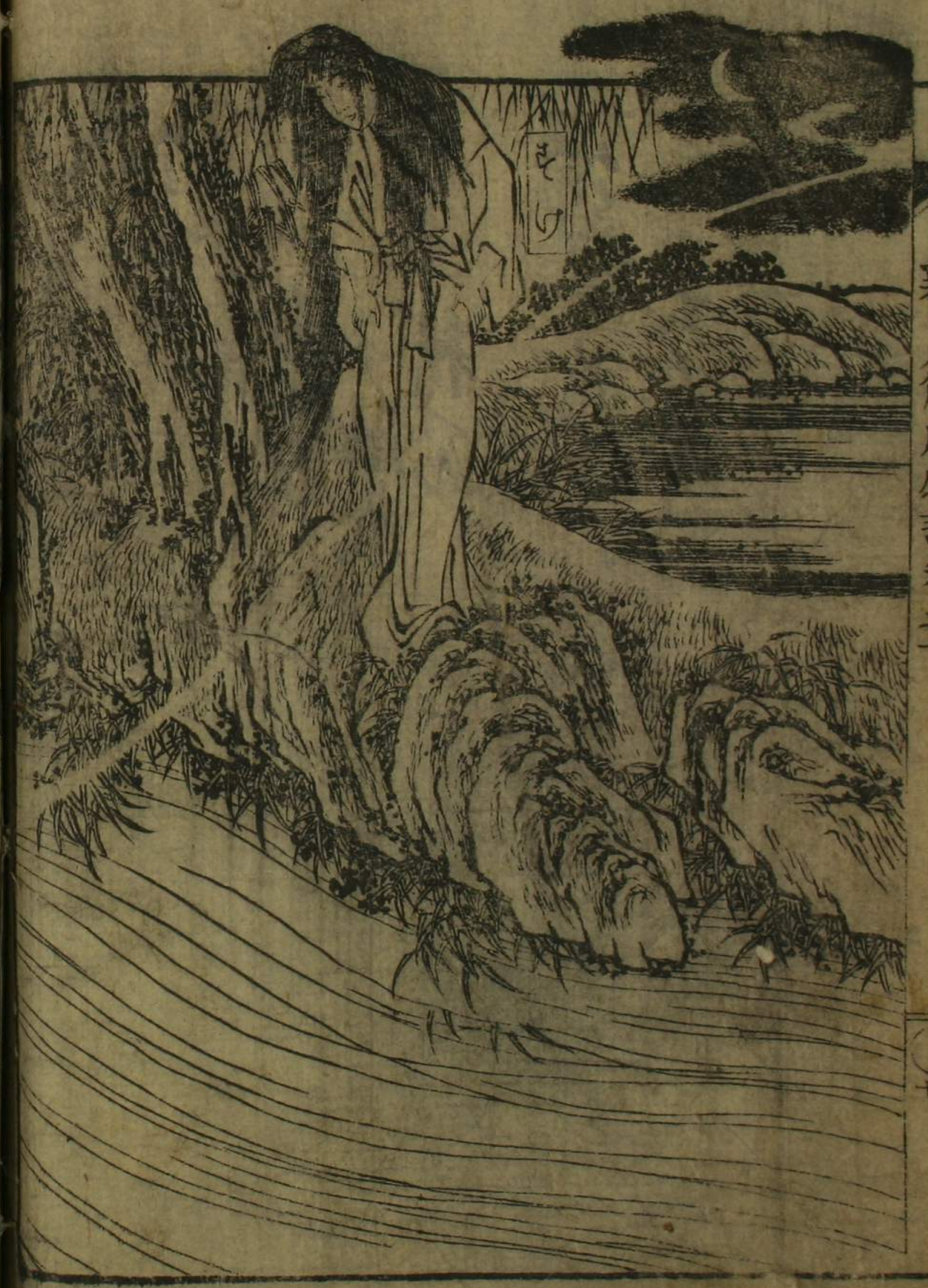


さうふ村
農夫の
かゝり妻

与左衛門



新田平兵衛初代作



新田平兵衛初代作

玉芝の彼日より。西入玄冬。小ぢひを運がとつとも。今さら選言詰る。
と。与をうが妻とちり小ぢれど。彼人のこと忘る隙を。その日の早
返事ふせざる間小。殊難が在るも。ちりうら茶とる小ぢく。もあれをのこ
遺憾をなげえ。折もがちとく見成送り。一日瘧發せり。終日
食と断る。卧さうられ。与をう驚れ。慈ひ玄冬。年さられと名医の
ふさう。これより外。醫師の家を遠く。これ行く。彼人を迎ふさう
んとも。ごうごう間夫の導は。さるとも。きり。忙しく。法恩寺村小走ぬを。
まづ。のう。を頼ゆ。ゆ。玄冬。玉芝が返簡が。小ぢ。与をうが妻と
ちりねと。と。ねと。あせ。きほ。ら。ま。の。面影の。ま。は。れ。が。
か。誘。お。ま。と。家小。ま。容体。雷小。同。了。服と診。と。玉
芝の。豫。る。字。お。ね。る。艶。筒。を。と。玄冬。が。袂。小。さ。入。れ。ん。と。と。情。を。

運入思をうらう。とら。病小假。ま。玄冬。を。招。け。と。与。を。う。と。つ。た。
玉芝が。持。あ。と。の。目。ら。草。野。へ。も。お。と。守。と。れ。が。彼。ホ。も。お。の。も。影。渡。
と。画。小。飢。を。ま。の。が。と。と。ま。あ。の。う。の。と。耕。小。解。が。ら
ち。る。と。も。厭。さ。り。け。系。その。頃。夫。役。小。死。ら。と。あ。り。て。黙。止。が。朝。より。馬。を
牽。く。遠。く。ま。出。る。ほど。小。玉。芝。は。う。隙。と。袂。ひ。く。よ。ち。ら。る。衣。服。と。錢。を
一。袱。す。これ。を。引。抱。法。恩。寺。村。小。走。り。ぬ。玄冬。小。あ。と。り。う。ら。つ。と。が
と。彼。む。く。つ。け。小。と。ら。と。と。且。夫。と。齊。眉。さ。ら。の。父。く。艱。色。と。脱。る。こと。
と。り。と。茂。の。色。小。と。と。れ。れ。と。あ。る。小。う。の。死。身。も。幸。あ。り。と。り。た。家。
在。と。も。暮。る。と。ま。ま。の。帰。ら。と。お。ぼ。尚。宣。ひ。つ。言。の。誓。の。信。ち。と。と。と。
携。る。奔。ぬ。と。い。と。と。う。れ。と。玄冬。の。眼。を。細。す。と。免。然。と。り。ち。家。を
小。小。ぢ。が。た。と。と。と。と。と。田。夫。の。妻。と。叫。れ。ぬ。と。駿。馬。の。庭。漢。と。な。せ。た。か。

定

累をぬく清三郎が家小判り。玉芝が去冬と奔る。首尾雷小判り。まごふやう。これ総角の昔より。いまごころ不覺とさうど。遺恨のれの日。散らん。命の限り諸國を編麻す。憎いとあな奴む。小環會く。この怨は雲へ。譲受る。八石目あまりの田比。小牙に領まのうまれば。累とともくも。うた小養音く。いふべは。いふとねの。早退らんとくま。あな情三郎夫婦遠く引留め。いふより妻敵撃人の潔。小似とねと。実の恥の上の恥。いふ。一己のうらもあ。いふ。累がう。小思ひ。う。まけ。堪志のい。と。練るを。子左。う。耳。う。も。う。け。い。つ。と。走。り。ま。つ。く。ゆ。く。び。帰。ら。ざ。り。う。清三郎い。い。ち。く。彼。が。田圃を管領。この春。土生。せ。家の。女兒。平。績。と。成。小累。は。養。音。ぬ。か。そ。一。夜。小。の。ら。る。彼。此。小。少。さ。く。と。な。ら。い。い。う。世。の。明。慮。と。と。ち。り。小。り。る。い。い。さ。く。あ。は。西。入。去。冬。の。玉。芝。を。い。と。が。引。武。藏。と。ね。と。

赴く。小。追。人。の。う。ら。ん。と。物。々。の。落。人。の。つ。ま。れ。い。走。る。小。路。と。擇。と。ち。く。ま。食。と。る。小。糧。を。擇。む。ま。の。く。歌。小。家。に。擇。む。て。朝。の。星。と。戴。は。暮。の。月。の。擔。ひ。ゆ。れ。く。武。藏。國。千。速。村。と。石。濱。の。間。ち。る。會。下。寺。の。こ。ち。ま。ま。ま。来。小。り。長。江。曲。浦。の。後。の。路。と。ひ。を。万。里。の。曉。の。月。小。領。と。り。と。書。と。三。春。の。暮。の。雁。小。託。い。ご。い。む。ぐ。く。こ。と。夏。小。惑。小。涙。の。雨。と。合。ひ。孤。村。の。樹。遠。く。腸。が。新。入。相。の。鐘。路。ゆ。く。人。も。い。と。稀。ち。り。浅。草。寺。より。數。町。西。小。淨。閑。寺。と。い。ふ。古。寺。の。住。持。と。ま。ま。玄。冬。が。從。母。兄。弟。ち。れ。其。処。と。頼。く。志。む。一。身。の。隱。家。と。ま。ま。い。ま。や。從。ち。り。誘。あ。る。暮。ぬ。る。亦。と。く。疲。れ。る。玉。芝。と。扶。引。ち。は。西。に。走。り。折。り。も。忽。地。白。兎。の。足。と。撞。矢。小。破。く。も。て。る。か。叢。藪。の。中。小。入。ん。と。と。る。小。よ。く。も。走。り。け。い。り。り。れ。い。ま。ま。ま。く。ん。く。こ。の。よ。れ。の。こ。と。あ。れ。と。ま。こ。え。ぬ。へ。と。い。ひ。う。け。く。忽。地。ま。と。と。押。行。李。



高屋鳳五郎

西入玄冬



千束の京の危難

廣澤沼太吉

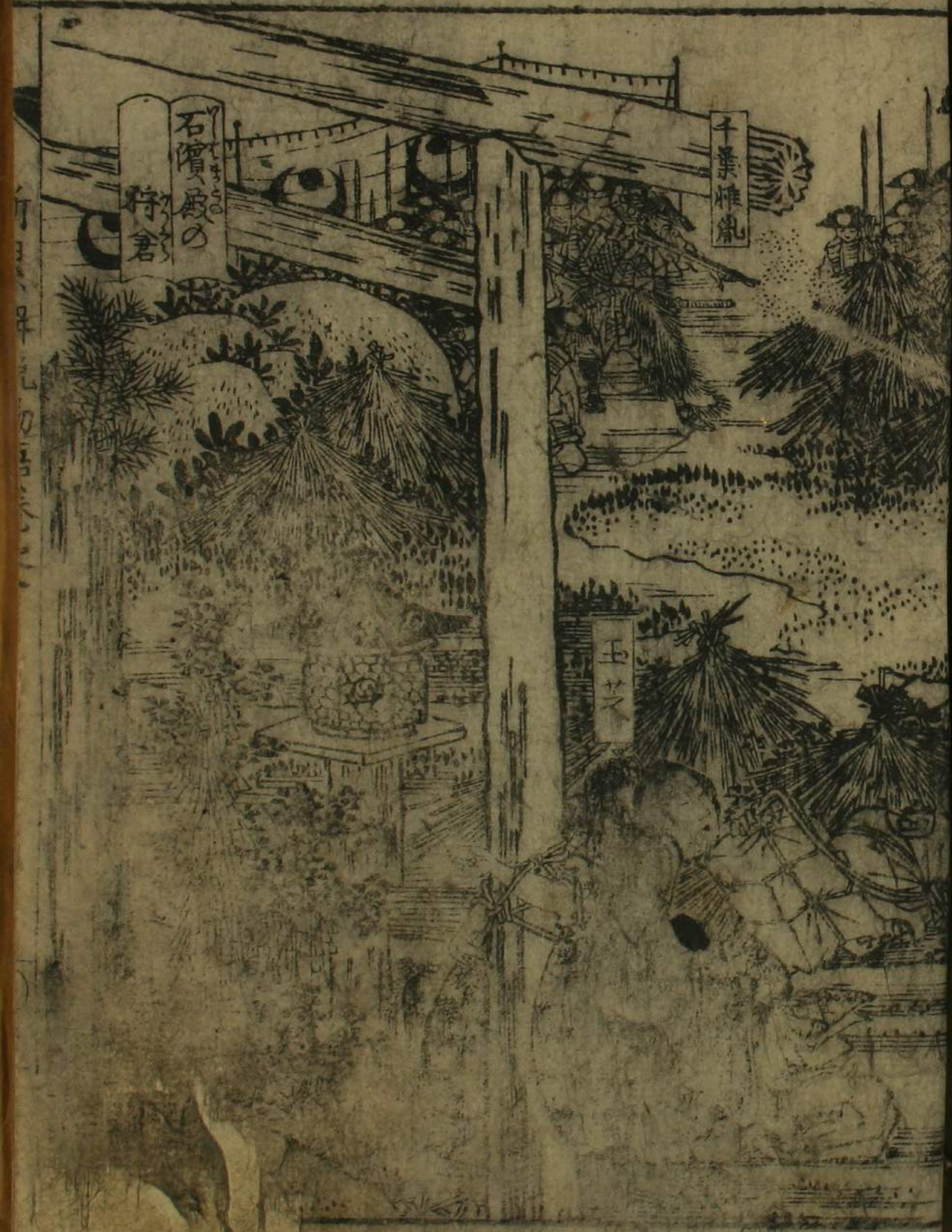
玉芝

の麻素を解く。四の足成ひとる小走り也。括て著る折しもあれ。前満月の
塗土を五小。延打の臍當しく。赤銅仰りの太刀。以帯腰小。列年繩。若くは
よ小六尺ありりの桿棒を持つる。荒男二人。樹蔭より跳出一人。矢庭小。玄冬
か頭髻を引纏も。この愚者甚膽太し。ちとどや石濱の千葉殿。あらの
ほろり小狩舎志ぬひく。まぶら射當ぬひく。鬼夜竹地一盗に去らんと
まる。逃るとも脱きまぶら。つたすたあく罵る。水田の中へ撲地と突
入を。跣歩んとどる。とどる。成持る。杖を閃く。百會のあらり。成丁と打る。か
ま冬ハ阿呀と叫びく。仰さまに。仙と全身漬。俣ふらう。息絶る。玉
芝これをもろく小悲しく。こら何とせん。と泣叫ぶを。又一人の荒男。つとより
く。玉杖をもろく。腰小著る。列年繩。く。く。縛め。行李も盤纏
も残さう。棄ひらう。二人顔をえあひく。俣僥。ことさめぬ。あひ玉芝

成引まろ。舊の路へ走り去人迹稀。ちる林の中。小ぬり。る神社ありける
ほろり小到。玉芝を鳥居の小。糸系とあらう。この二人の荒男。もろ
廣沢の沼太郎。高屋鵬立。高と鳴く。白撞。ちる。年未。まぶら。の
較計。路。く。女子。成。指。掣。又。剝。く。旅人。を。却。は。り。の。ど。も
ちる。二賊。玄冬。成。謀。らん。お。小。千葉家。の。列。年。小。打。拾。一。隻。の。鬼。と。も
く。伎。倆。の。弥。小。隘。と。輒。く。打。仆。く。玉。芝。成。棄。去。ら。う。か。く。は。沼。太。郎
ハ。夕。月。の。紙。小。玉。芝。を。熟。視。く。り。や。う。こ。ら。ひ。一。より。稀。ち。る。獲。ち。ん。こ。れ
を。一。包。の。金。小。ち。ん。ら。ん。ま。く。お。ひ。も。及。び。し。れ。は。田。村。より。跟。末。ら。う
る。墨。田。川。の。渡。を。も。踰。さ。し。彼。処。ま。く。如。此。と。ん。と。較。計。し。の。こ。ら。ひ。一。より。稀
囊。より。出。ら。う。あ。ら。れ。ば。こ。れ。が。身。價。三。分。二。の。こ。ら。ひ。の。こ。ら。ひ。を。鵬。立。と
と。尤。右。小。ら。掉。い。な。さ。う。あ。ら。う。こ。の。女。子。を。携。ら。う。四。方。髪。の。面。こ。と。白

くて禁平やたされ。腰より一刃を帯ぐ。おぼえあつたのとなつた。口れ水田
 の中小投入をこく。立地小打殺しさればこそ。汝が謀も空しくなぬ。ね。ま。ま。
 身價の三分二つをれとるべしといふ。沼太郎大少怒つ。縦張翼徳の
 勇ありとも。孔明が智小よとる。いづれを全た誘成びん。よりちた物あり
 かひせるといふが。遂小おあひの。燭とちりて。互小。廻あひ果の引組で。操倒さんと。挑
 る。併もあれ向ちる。稻叢の中を。と音。び。が。一声の鳥銃。う。く。響。音。と。ひ。う。
 く。只今引組。う。沼太郎が背より。鵬五郎が。膝。打。ぬ。れ。左右。撲。地。と。倒
 る。血。け。り。ま。ま。死。し。う。り。る。玉。芝。の。ら。の。景。迹。と。る。く。か。牙。又。打
 殺。さ。る。く。と。お。り。と。逃。と。う。た。縛。の。索。さ。し。神。の。罰。と。と。れ。か。も。あ。う。く。
 戦慄。と。い。ま。が。一。員。の。大。將。綺。羅。や。ち。り。特。衣。小。熊。皮。の。行。勝。し。く。手
 小。孫。島。の。鳥。銃。を。拿。乾。し。う。た。る。楓。葉。の。蔭。より。徐。と。と。歩。出。と。る。小

それ。待。待。と。お。ほ。く。く。く。く。の。お。衣。束。と。る。影。の。社。士。或。は。鳥
 成。駕。犬。と。索。或。は。涼。岡。蹄。鼠。撃。う。ら。ん。ど。と。推。り。神。社。の。ほ。り。小。い。く
 ま。れ。り。その。と。れ。件。の。大。將。社。頭。小。床。儿。と。ま。ま。と。後。者。小。命。く。玉
 芝。が。縛。を。と。る。と。く。近。く。誘。引。し。と。え。く。う。え。つ。志。ぎ。一。あ。り。く。い。く。く。
 ろ。の。や。ま。お。り。く。ち。怕。れ。と。と。れ。の。石。濱。の。千。葉。二。郎。太。郎。惟。胤。ち。り。
 り。も。ら。の。も。ら。小。狩。舎。一。目。今。歸。館。も。と。く。彼。処。ま。ま。ま。り。小。
 二。賊。が。高。ら。り。小。お。あ。う。ぐ。ひ。ま。る。ふ。と。く。事。の。顛。末。審。小。丸。編。聽。り。
 者。奴。ホ。ろ。廣。澤。沼。太。郎。高。屋。鵬。五。郎。と。い。ふ。く。兇。賊。と。く。近。曾。
 毎。夜。千。速。の。村。稍。盡。又。その。小。塚。原。ち。り。飛。鳥。の。神。社。の。ほ。り。く。
 引。剥。と。る。よ。う。風。声。あ。る。を。り。く。追。捕。嚴。重。と。と。い。く。と。も。い。く。く。
 巢。を。携。び。ぐ。り。り。小。ま。ま。く。も。兩。虎。食。を。争。ひ。一。虎。は。死。一。虎。は。傷



冥日月角月夕言卷二

廿八

く小あつて。獨夫ひとりごとをばしうそをばしうそこれきねえ。ともはむ何國の
 月のぞ。伴たりの死しと伺うかひ小玉芝うたまやうや。信のぶるむおるまされどき花如に
 こころを明白あきらまき告あげ。仍なおて答こたへるや。こころを鎌倉かまくらの月のうつら
 故ゆゑあつて父ちちも小下總國しものくに小島この島しまに侍さむらいり。小近曾ちかぞう父ちちをうつて
 けり身みの便たがひを表あらわひ。從よ弟とあつて。男おとこ小伴こたたりを武藏むさしのこ小作こたくらも
 とらん。こころいふ。高たか小墨田川すみでがわの上のうへの渡わたをこころいふ。こころいふ
 彼か荒あ男おとこホおぐ出いで来きたり。從よ弟との男おとこを打うち殺ころす。こころを奪さら去はり。ここの
 如ごとく来きたる。ちひふ小島この島しまに侍さむらいり。處ところの恩おん澤ざ小こつて。仇あやを報むかひ
 る。身み再び生なじりぬ。あつて其その如ごとく小人こじんを遣つかへ。從よ弟とが存ぞん亡ぶつの程ほど
 ともこころいふ。ちひふ人の所ところ恩おんちとつて。惟ただ亂みだれ玉芝うたま玄冬げんとうが住すま
 る。夢ゆめの夢ゆめとあつて。ちひふ人ひとをばしうそをばしうそ。ちひふ人ひとをばしうそ。

又一人の近臣きんしん奴やつり。玉芝うたまりや田での睦なご小遺こご。玄冬げんとうが安否やすひを尋問たづねし
 て。玉芝うたま奴やつり。石濱いしはら小帰館こかいかんせ。ちひふ人ひとを遣つかへ。夜二更よふたよりの左側ひだりがは小伴こたたり
 の近臣きんしんより来きたる。某この墨田川すみでがわの畔ほとりより千速會ちんそくえい下寺しもでらの間まある。
 水田みづのに残のこる如ごとく。索あしなひひが。後人あとびとの屍しかばね死しる。人の死しる。あつて。あつての
 人ひとも逢あひ。ちひふ小甲夜こかつかよの間ま小猿こさるをばしうそをばしうそ。あつて。あつての
 小帰こかり来きたる。ちひふ人ひとを遣つかへ。惟ただ亂みだれ。小島この島しまに侍さむらいり。こころいふ。
 出いでる。縁由ゆかりをき。ちひふ人ひとを遣つかへ。是この天あま花はなの雁かりの對たい小後こごれ樹じゆ傳でん人にん
 孫むすこの指さし小離これ。ちひふ人ひとを遣つかへ。是この天あま花はなの雁かりの對たい小後こごれ樹じゆ傳でん人にん
 亂みだれ。あつて。あつての。あつて。あつての。あつて。あつての。あつて。あつての。
 ちひふ人ひとを遣つかへ。あつて。あつての。あつて。あつての。あつて。あつての。あつて。あつての。
 ちひふ人ひとを遣つかへ。あつて。あつての。あつて。あつての。あつて。あつての。あつて。あつての。

同く小玉芝答く。その年未筑柴琴を攬持せり。いひくは。
 おもきくと聴し。はるべりもあ。いどとり。惟胤点頭く。
 今宵の夜も蕭然ちり。まろ深きこと。此音をゆき。
 夜の雨小軒の覚のまはく流もの其田鶴の青真よりから来るぞ。
 声く羨不る小。調りと微妙り。六惟胤かく感づ。祿夥賜り承る。
 久した老女を召し。玉芝を領らるまづ。おのが局小侍ひくあつく勤めり。
 惟胤小子ら二人あり。家子のままら。田糸姫とままらる十八歳次の田鶴。
 二品正統とままらる十六歳あり。その兄才探致尋常小勝をこし。
 べー田糸姫の三五の春難痘もろく。隻目盲。隻脚蹇唐のままらる赤
 松とりのの榊めく。異國へく宿瘤無鹽もか白王國の一と丹後の

竹野姫城次貝盛り姨母坂額ちども。かくまでういあ。いどとる醜なり。
 ちり小りれい。人小らるままらる恥づ。むらまらる侍女らもろく。物のつと
 もあい。ひく龍がらる後然小。琴よく彈侍婢をゆまらるくのあまら。
 洛らるりのもままらるれ。その東まらると稀く。ちは意小稱あ
 ちちららる。痛しむらる薄命の女島ひる難痘小係く廢人とままらる。
 或いひふこれち小因縁あり。原惟胤の近臣小門野と三の人のあり。
 忠臣無二の壯夫らるが。倭人山梨治部とりののに讒言をせれ罪ちく
 刑せられるら。与三たらるとたまらる。怨言を吐く己が治部の
 その年の暮登小牙まらるりれ。ままらるふ次の春田糸姫難痘りままらる。
 美しく面影心地醜悪ちらる。与三が死心美の所ちらるべとまらる。
 田糸姫のの夜らる玉芝が琴道の微妙小

愛く。父惟胤小まうし。をひ。ほろり。迎くる。仕る。玉。世々。を
 長く。女子。よろ。信ず。進止る。後小。田糸。姫。飲
 び。彼。ち。と。と。ひ。り。り。く。く。玉。入。り。の。憂。り。あ。い。衣。食
 何。れ。の。ま。ま。う。う。ま。う。契。つ。玄。冬。の。ま。ま。あ。い
 れど。又。尉。心。も。ま。う。り。ん。畢。竟。彼。西。入。玄。冬。實。小。死。や。不。下。り。ん。
 次。の。巻。小。解。脱。の。ま。ま。あ。い。ん。



